

2009. 8. 3

No.157

編集 樋口 みな子

E-mail

minginga@agate.

plala.or.jp

郵便振替

「銀河通信」

02740-7-56535

(6号分1,000円)



野幌から夏の便りです

北海道はずっと雨が続きました。まるで梅雨のようです。スカッとした青空が見たいです。

156号で書きましたが父が病院から、介護施設でのショートステイにお世話になった途端に病状が悪化。また以前の病院に入院になりました。食事もとれないほど衰弱し、介護度は5に上がりました。でも医療スタッフの治療でかなり快復。ちょっとホッとしていたのですが急性期を過ぎたら退院して欲しいと言われ、母も足が悪いため、療養型の病院を探すことになりました。なんだか落ち着かない日々です。そんな中で父が87歳を迎えることが出来ました。良かったなあと思います。頑張ってきた母も膝の手術をすることになりました。

介護の合間を縫っての山は心の安らぎでした。一步一步踏みしめて自然と対話している楽しさがあります。父の快復のおかげで山に登れているのだなあ感謝しています。

左の写真は、ハイオトギリの密を吸うタテハチョウのコヒオドシです。黄色い花が好きなのでしょうか。高山帯の厳しい自然の中で越冬すること



7.26 斜里岳で、ハイオトギリの密を吸うコヒオドシ

を知りました。すごいですね。生命力の強さに感動しました。

銀河通信が7月10日で21周年になりました。父の具合の悪かった時本も読んでいたのですが、ただ字を追っているだけでした。銀河通信を編集しようとしたら何を伝えたらいいのか分からないのです。まとめるのも一苦勞でした。読者の心に響かないとしたら、私の気持ちのありようを表していると思います。申し訳ありません。続けることの困難を今回ほど感じたことはありませんでした。書くことは山に登るエネルギーとは別だと思いました。細切れの時間の中でパソコンに向かいました。苦しい時も悲しい時もある。読者の皆さまには、そう思って読んで頂けたら幸いです。

もうひとつの誕生日が7月23日。私もついに還暦を迎えました。60年で再び生まれたときの干支にかえることからそう呼ばれていると辞書にあります。息子はまだ大学生だし、夫の定年まではもう少しあるし、父母の介護もあります。まだ自由に羽ばたけるとは思えませんが、今までやってきたことを振り返るいい機会かも知れません。友人で銀河通信の読者のお一人から誕生日にバラの花束が届きました。嬉しかったです。プレゼントを記念にしようと写真を撮りました。バックは10年ぐらい前に読者から頂いた、畦地梅太郎の版画「おいしい水」です。こんな私の夏です。みなさまはどんな夏をお過ごしでしょうか？



7.23 誕生日に自宅で

みな子の山旅日記

斜里岳 1545m ーいくつもの沢を越えて



7月25日に清里町の緑青荘に宿泊し、翌日斜里岳に登山教室の皆さんらと21人で登りました。旧道コースを登り、下山は新道コースです。私はサポーターです。

今回は同じ山岳会の会員であり、登山ガイドをしているMさんに講師をお願いしました。トムラウシの事故をふまえて教室のメンバーには、セーターやウールの帽子、手袋などの用意も事前に知らせ、当日確認もしました。25日の夕方、斜里岳にガイドとして登ったばかりのMさんから、このまま雨が続き、沢が増水して危険。他の山に変更も考慮して欲しいとの説明がありました。

26日、午前3時半起床。小雨が降っている。バスで、登

山口の清岳荘に。小雨なので、下二股まで行って見てそれからの登山を判断することになりました。全員、雨合羽を着用し、ストレッチ体操後、5時半に出発しました。しばらく行くと沢になります。連日の雨で水量が多いですが靴をぬらすことはありません。へつりもありました。Mさんから「出来るだけ、下のへつりを使うように」と注意がありました。落ちたときに高い所だと怪我をします。理にかなっているあと納得。雨もやがてあがり、下二股からは、いくつもの滝の連続です。清涼な空気が気持ちいい。羽衣の滝、方丈の滝、見晴の滝、竜神の滝、霊華の滝と続きます。連日の雨で、沢はいつもより3倍近い水量とのこと。班ごとに安全を確認しながら進



可憐に咲いていたリンネソウ

みました。岩場で滑りやすいところにはクサリもありました。人数が多いので危険な箇所を通過するのに時間がかかります。何より安全第一で進みました。八合目を過ぎてはまだ沢は続きます。沢の気持ちよさで快適に高度を上げていき、上二股に到着。

上二股からはガレた道を進み胸突八丁に。ここからが急登です。でも視界も開けてきて尾根にあがったところが馬の背でした。ヨツバシオガマ、ハクサンチドリ、チシマノキンバイソウ、エゾツツジ、ハイオトギリ、ミヤマオダマキ、リンネソウ、エゾオヤマリンドウ、コケモモ等、たくさんの花に出会えました。

馬の背から一つピークを登ると白い祠があり頂上は目の前に見えます。11:20、ようやく全員が頂上の人に。快晴にはなりませんでしたが雲の合間から知床と阿寒の山々が見えてきました。

往路は上二股から熊見峠の新道で下山。傾斜の急な下りとアップダウンを繰り返します。ハイマツの尾根道には高山植物が彩られ楽しい。熊見峠から斜里岳が丸くドームのように見えます。優美な山容ですがここに至るまでは難所も多く変化に富んでいて、緊張感あふれる山旅でした。

Mさんの文章に、斜里川の「沢音を子守歌として聞きながらぐっすり眠った」とありました。私も幼い頃、沙流川（日高）のせせらぎが子守歌でした。沙流と斜里は共にSarで葎の生えた湿原をいい、遠く離れた地なのにつながっていることに不思議さと親しみを覚えました。

ツアー登山のあり方が問われています。斜里岳は沢歩きがあり危険と隣あわせです。沢経験のある人たちと少人数で登りたいと思いました。

7月30日から3泊4日の新冠での自然児学校を終えて帰宅しました。今年は10回目。天候が心配でしたが、雨にならず厳しい急登のペラリ山に19人の子ども全員が登りました。私も楽しかったです。

熊見峠から見る斜里岳（中央）



平日は父の入院先に様子を見に行きながらの登山です。紹介しきれないので記しておきます。6月4日来馬山、6月8日イチャンコッペ山、6月21日秋田の太平山、6月28日大千軒岳、7月5日ウエンシリ岳、7月9日十勝幌尻岳、7月26日斜里岳

太平山 1170m ー天然の秋田杉とブナの混交林の山ー

6月20～21日と秋田で日本山岳会の自然保護全国集會に参加してきました。各地から23の支部と首都圏から140人の参加がありました。

20日の午前各地から支部報告があり、私は7年間の道支部の高山植物のパトロール活動について報告しました。特に印象に残ったのは青森支部が話した白神山地の保護と活用の問題です。国は保護を強調するあまり、白神山地の自然と共に育まれてきた人々との関わり（山菜採り、溪流釣り、熊撃ち等）が禁止され出来るだけ人との関わりを少なくすることで自然を保護しようとする管理が行われていること。青森支部では白神山地ブナ林再生事業を展開し、世界自然遺産に隣接し荒廃している



6.21 秋田太平山頂上で

杉植林地を混交林に戻すための活動を、小中学生、高校生を含む市民、事業者、行政と共に行っています。その活動の中で自然のすばらしさを知った不登校だった子どもが学校に生き生きと通い出したり、林業をやりたいという生徒などが出てきたと語ったことです。

21日は、太平山登山。深夜の土砂降りの雨で実施が危ぶまれましたが小雨決行。登山コースと散策コースに分かれ、私は登山コースに加わりました。参加は50人。6班に分かれ秋田支部からは15人のサポートです。私は宝蔵コース希望でしたが、雨で危険との判断で全員が旭又コースに。8:00登山口出発。2つの橋を渡って御滝神社へ。天然の秋田杉とブナの混成林が美しく素晴らしかったです。雨も徐々にあがり、杉林の合間から青空がのぞき、森全体が生き生きとして、厳しい登りを忘れさせてくれるようでした。

森が豊かだからでしょうか？野鳥のさえずりが大きいのです。仲間には鳥に詳しい人がいて、クロジだキビタキ、オオルリですと説明するのですが、「あれ、どっちのさえずりがキビタキ？」と混乱してしま



天然杉林の中の軌道跡を行く

いました。声はすれど姿は見えぬ。我が班リーダーのK氏は某高校山岳部顧問だったとかで、まるで高校生を連れて歩いているかのような早いペース。美味しい水飲み場の御手洗に着いたのが9:45でした。しばらく急登を行くと大きな鳥居が見えてくると頂上はもうすぐです。頂上10:50。一等三角点にタッチし、信仰の山らしい三吉神社の鳥居を囲んでランチタイム。

秋田支部の方たちが用意してくださったお弁当を開くと竹の子ご飯に、卵焼きや椎茸の煮付けなどが美しく彩られ、美味しく、その心配りに感激でした。

山頂の休憩、宿泊小屋は昨年、失火により消失。現在、建設中でした。トイレもあります。

高山植物は雨でおおれていた花もありましたが、ヒメシヤガが可憐に咲いていました。ショウキラン、アカモノ、ミヤマスマレ、イワカガミなども見る事ができました。奥羽の山々や鳥海山を望めなかったのが残念でした。

全員で記念写真を撮り、11:40下山開始。13:30登山口に到着大平山登山を無事終えました。

イチャンコッペ山 829m ー眺望の山ー

登山教室の人たちと6月8日、イチャンコッペ山に登りました。

支笏湖に向かうヘアピンカーブを曲がったところが登山口です。登山道は狭いので、見逃してしまいそうです。アイヌ語で鮭の産卵する川という意味のようです。9:30出発。いきなりの急登に一同、驚きの声。支笏湖を右にみながらトラバースすると、オコタンペコ山が見えて来ました。しばらくすると展望が開け、支笏湖に樽前山と風不死岳が映えて美しい。反射板のある785mのピークを目指して、小さなコブのアップダウンを超えると反射板に着きました。笹原を登っていくとそこが頂上でした。11:55。小さな山ですが眺望は抜群。恵庭岳、空沼岳、漁岳などを一望にしながらい、ランチタイム。12:30下山を開始し、13:50 登山口に到着、トレッキングを終えました。



6.8 支笏湖に映える樽前山と風不死岳

ウエンシリ岳 1142m ー懐かしい山ー

今年、支部山行が再開しました。

私たち4人は7月4日の朝4時に江別を出発。西興部村の氷のトンネル登山口に7:05でした。メンバーは14人。1年ぶりに顔をあわす人もいて仲間と登る楽しさがあふれる登山でした。埼玉から参加した76歳のTさん。若い旭川のHさんがリーダーがさわやかな挨拶の後ストレッチ体操を指導。全員で体をほぐし、8:40 氷のトンネル登山口を出発。

いきなりの見上げるほどの急登にたじろぎます。この急登は640mの氷のトンネル分岐まで続きます。足場の悪い岩稜は慎重に。稜線を渡る風が心地よい。展望も一気に開けてきます。一筋の氷食した急斜面が印象的なウエンシリ岳が雄大です。アカモノが可愛い。チシマフウロやイワカガミ、コケモモなどが咲いているが花は少なめでした。頂上手前までダケカンバの林を歩き、少し回り込むとそこが頂上でした。11:50。

集合写真を撮ったり、思い思いに過ごし、12:20下山開始。氷のトンネルは崩落して危険とのことで閉鎖されています。

往路は見晴らしのいい尾根歩き。下川コース分岐を通過して中央登山口に14:55。Tさんがストレッチ体操を指導してくださり、無事に山行を終えました。

亡きSさんが2001年初めて案内してくださった山です。懐かしくSさんを偲びました。



十勝幌尻岳 1846m ー厳しい急登にあえぎながらー

小さな山の会の仲間7人で7月9日十勝幌尻岳に登りました。私は6年前の残雪期の5月に登っています。

前日は大雨。今年は雨が多くなかなかすっきり晴れ上がりません。9日、江別を3時半に出発。マオイの丘道の駅に集合し2台の車で日勝峠を越えて登山口に。

登山口は戸蔦別川支流のオピリネップ川添いの林道を入った土場跡です。先行したのは男性一人だけ。7:50出発。丸太橋を2回渡り、渡渉もありましたが、登山靴をぬらすほどのことはありません。しばらくはなだらかですが、鹿に食べられたのか丸裸になった大木を過ぎた尾根の取り付けから九十九折りの急登にあえぎながら進みました。お花が楽しみでしたが、ウコンウツギが目立つ位。ひどいというほどではありませんが藪をかき分けていきます。でも登山道はしっかりしており迷う心配はありません。頂上の肩には10:45でした。ここから札内岳がほんの少し顔を出していました。エゾツツジのピンクが鮮やか。「足が攣った！」とT橋さん。漢方薬を飲んで様子を見る。顔色も青ざめていました。なんとか収まったので、ゆっくりと歩を進め頂上には12:25でした。雲が邪魔をして、日高の大展望は見る事が出来なかったのは残念でした。風が強くて寒いほど。風のあたらない所でランチタイム。それでも登り切った満足感でいっぱい。

下山は往路をたどるだけ。13:55登山口に到着し、長い登山を終えました。

新嵐山荘で汗を流し生ビールが格別に美味しかったです。

翌日は激しい雨。中札内美術村で相原求一郎美術館で山の絵画を鑑賞して帰路に着きました。H田さんT内さん、2日間運転お疲れさまでした。



眼下に広がる十勝平野

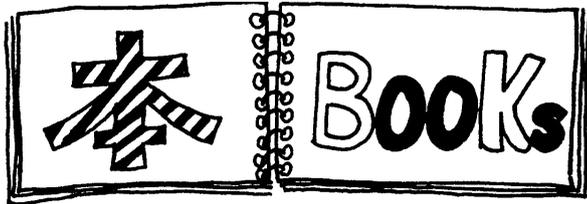
大千軒岳 1072m ー暑さに耐えて頂上にー

6月27日、前泊して登山教室のメンバー18人と大千軒岳に登りました。知内川コース。私は4回目です。

前日に、大千軒岳の自然を守る活動を20年間も続けている山歩集団・青い山脈の代表であり、日本山岳会の会員でもある清水和男さんにレクチャーを受け、当日も山の案内をしていただきました。

登山口を6時に出発。朝から蒸すような暑さがこたえました。釣り橋を渡り、高巻きやきついアップダウンあり、渡渉ありと変化に富んだコースは緊張感があふれます。広い河原から対岸に渡ると道南にしかないサワグルミとブナの大木が素晴らしかったです。(8ページへ)





「女三人のシベリア鉄道」 森まゆみ著

集英社 1800円



20代の若い頃、私もよく旅をしました。日帰りの鉄道の旅です。当時、山よりも本が何より好きでした。宮本百合子の「伸子」「貧しき人々群」などを夢中になって読んだことを思い出します。「播州平野」を読んだ時も、その土地を訪ねて見たいと京都から鈍行列車に乗って加古川で降り、バスに乗って稲穂が黄金色に輝く播州平野に立った時の感動は忘れられません。その頃は、鉄道の旅に人生を重ねるには若すぎて、ただ作者の描く世界を身近に感じて見たかったのです。

女三人とは明治末から昭和のはじめにかけて、それぞれの目的でシベリア鉄道に乗った与謝野晶子、中條百合子（後に宮本）、林芙美子です。ウラジオストクからモスクワを経由してパリまで、彼女たちの足跡を追った著者自身の旅を加えた紀行文であり三人の評伝にもなっています。四人の人生が、シベリア鉄道に揺られながら浮きぼりになります。

パリにいる夫に会うために、七人の子供を日本に置いてシベリア鉄道に乗った晶子33歳。社会主義革命が起きて10年後、現実化した理想の現場を見るためにロシアに旅立った百合子28歳。そして夫を東京に残し、恋人に会いに行った芙美子28歳。

それぞれに文壇で活躍していたとは言え、時代の先端を行く行動力に圧倒されます。今ほど自由でない時代に、この目で世界を見てやろうという気概がすてきです。

三人の旅を追体験する著者は、途中下車した街を語り、ソヴィエト時代を生きた車掌や乗客ら、普通の人たちの声も聞きます。三人の日記や書簡、小説の一文などが引用されていますが、感じ方が四者四様。

パリに着いた晶子は「セエヌ川よき船どもにうち向い橡の並木の青き呼吸吹く」。とパリの情景をうたいます。その17年後の旅人、百合子は「この7月14日、パリ祭の日にソヴェト同盟と中国との国境が封鎖された。17日には、正式に国交断絶した。そして、18日、ハルビンに戒厳令がしかれた」（道標から）と緊迫した歴史の転換期を伝えました。第三の旅人、芙美子はパリに泊まったホテルを「一番私の神経を焦々させるものは七面に張ってある壁紙。まるで安宿みたいに紅色の花模様で、何かあわただしくなやましい」（下駄で歩いた巴里）と描写しています。

著者はあとがきに、晶子、百合子、芙美子は近代文学史上、大きな仕事をした女性で、それぞれに親愛と敬意を持って読んできたと書いています。自身の平坦ではなかった人生を重ねていて、私もどれほどたくさんのお本から豊かな時間をもらったことだろうと思いました。

歴史の中を旅した三人の勇氣と知性に爽快感を覚えました。

「小説 鶴彬一暁を抱いて」吉橋 通夫著 新日本出版社 1800円

「手と足をもいだ丸太にしてかえし」「胎内の動き知るころ骨がつき」「万歳とあけて行った手を大陸へおいて来た」と戦争を批判した川柳作家、鶴彬。今年は生誕100年になります。その存在はあまり知られていませんでした。私もこの本を読んで初めて知り、是非紹介したいと思いました。

鶴彬は1909年、石川県の高松町で生まれます。本名喜多一二（きたかつじ）。本書は17歳の一二が、故郷を出て大阪に向かうところから始まります。治安維持法で検挙され、留置所で赤痢にかかり29歳で命を絶たれるまでの人生を事実フィクションを交えて描いています。

神山征二郎監督により、映画「鶴彬 ころろの軌跡」が完成。各地で上映が始まっています。

鶴彬は15歳から新聞に川柳の投稿を始め、青年期には社会の矛盾に目を向けた句や反戦句を多く残しました。まるで今とそっくりな失業にあえぐ人々の苦しみに共感した「退けば飢えるばかりなり前へ出る」「今日も亦あぶれ野宿雨に明け」「枯れ芝よ！団結をして春を待つ」。鶴彬自身も貧しさの中で詠んだ句でした。

著者は鶴彬の川柳だけでなく、たくさんの評論も引用。しっかりと社会を見据えた視点と明瞭な文章が見事です。

川柳作家の井上剣花坊・信子夫妻との出会いや夫妻の娘との淡い恋も描かれます。

反骨の生涯を29歳で閉じた鶴彬。小林多喜二と同世代です。写真で見ると目元が涼やかな美青年です。

憲法9条を改悪しようという動きが活発です。鶴彬の反戦の思いがまっすぐに届きました。映画が札幌に来るのを楽しみに待っています。



「新版 北海道の高山植物」梅沢 俊著 北海道新聞社 2600円

本書は植物写真家の梅沢俊さんが86年出版から23年ぶりに出した新版です。梅沢さんは北海道高山植物盗掘防止ネットワーク委員会立ち上げの時から委員で、さまざまな講演会などで、高山植物の大切さを伝え続けています。朝日新聞に「北草花樹」を連載。私も楽しみに読んでいます。

前回よりも分量もアップ。800種以上の高山植物を1700枚のカラー写真で紹介しています。私はこの本が出来までのエピソードを聞く機会がありましたが、より楽しくなるような工夫が満載です。

植物は科ごとにし、見事なお花畑の群落や、変わり花の写真もたくさん入っています。

一番最初に出てくる写真は4ページにわたるエゾウスユキソウです。レブンウスユキソウやオオヒラウスユキソウは有名ですが釧路や、ニペソツ山、鷲別岳（室蘭岳）にもあることを本書で知りました。

五色ヶ原に2年前に登りましたが、お花畑は温暖化で乾燥化が進み、鹿の食害もすさまじくお花畑が衰退していました。P222にチシマノキンバイソウの群落が収められていますが、多彩な花の群落は見る事が出来なくなるかも知れません。

少し重いですが、本書を携えれば山登りが楽しくなるのではないのでしょうか？是非お勧めします。



「ボン書店の幻 モダニズム出版社の光と影」

内堀 弘著 ちくま文庫 950円

1930年代、モダンな装丁の詩集をたくさん出し、この世からひっそりと消えるように終えた鳥羽茂の足跡を、資料を丹念に掘り起こし関係者47人に取材し辿ったのが本書です。

1992年に単行本として出版されましたが、16年後にはそれからの物語があとがきとして追加されました。

著者は、詩歌書を専門に1920～30年代のモダニズム文献を扱う古書店店主です。

モダニズム詩人の顔ぶれは、北園克衛、春山行夫、安西冬衛ら。それらの詩集を

自分で活字を組み印刷し、刊行していたのがボン書店の鳥羽茂でした。職人芸を思わせる鳥羽茂の組版技術とデザイン感覚の洗練さは金銭によっては報われず、名声にも縁がありませんでした。著者は少ない資料と関係者に当たり鳥羽茂を浮き彫りにします。初めて無名の出版人が著者によってに光があてられたのです。

東京を引き払い、故郷の大分県緒方村に帰った鳥羽茂が亡くなったのは28歳でした。そこで物語は終わります。

単行本が出たあと、すでに亡くなったと思われていた鳥羽茂の妹と当時4歳だった息子に出会います。その息子の言葉「あなたのご本を読んで親父に会えました」。本には、まるでドラマのような奇跡を起こす力があるのですね。詩人の影に隠れて語られることは少ないけれど、装丁や組版は詩心がなければ出来ません。モダンな装丁も詩の一部ではないのでしょうか？

目立たないこと、目立たない人に心を寄せる著者の温かい人柄が伝わってくるようでした。

「ほめ言葉のシャワー」ことば：「シャワーに参加して下さったみなさん」

編・著：水野スウ/中西万依 問い合わせ いのみら通信：水野スウさんtel 076-288-6092 fax076-288-6093
又はパソコン「紅茶の時間・水野」で検索 450円



この小さな本は2008年、川越でのコミュニケーション・ワークショップ「ほめ言葉のシャワー」に参加した人たちが思い思いに書いた言葉でした。

水野スウさんはその時のことを、どの言葉も温かく一枚一枚きもちの花びらのようでしたと書いています。娘の万依さんは、今この世に生きているどこかの誰かが、自分の生活の中から生み出した言葉。そんな言葉の呼吸が伝わってくるような本にしたいという思いをカタチにしたらこんな本になりましたと。

人のいいところみつけて難しいですね。私も仕事と家事でてんてこ舞いしていた頃、夫が何も手伝ってくれないことに腹が立ちました。銀河通信の20周年を祝う会で夫が「一生懸命やっていたんだね」と初めて言葉にしてくれました。ほめ言葉は言われることで相手にもやさしい気持ちが生れます。私もいつの間にか台所がきれいになっている時「ありがとう！助かったわ」と伝えています。（7ページへ）

人として大切にされたい、認められたいという願いが言葉のひとつひとつに込められていて心がふわりと温かくなります。ハウツー物の似た本を見かけたことがあります、それとはまるで違います。

最近言われた言葉で嬉しかった言葉は「笑顔が可愛いね」でした。以前、病院で働いていた時、自分の病気を受容できず、いつもいらだっていた患者さんがいました。その苦しみやつらさを乗り越えて、とびっきりの笑顔を見せた時、思わず「笑顔が素敵ですね」と言葉にしていました。悲しみや苦しみを突き抜けた笑顔って奥が深いと思います。

映画



「愛を読むひと」

スティーヴン・ダルドリー監督 (米・独)

ベルント・シュリンク作「朗読者」の映画化です。数年前に読みましたが、情景描写は忘れていました。

ふとしたことで知り合った15歳のマイケル(デヴィット・クロス)と21歳年上のハンナ(ケイト・ウィスレット)の愛と別れを描いています。

ハンナに求められて古今の名作をマイケルが朗読します。二人にとって至福の時間が積み重ねられるのです。ある日、ハンナは突然姿を消しました。

ここから場面は急展開。1966年、法科の学生になったマイケルはゼミで裁判を傍聴し、戦争犯罪法廷の被告席にハンナを見ます。ハンナがナチスの強制収容所で看守をしていたことをマイケルは初めて知ります。他の看守もいたのですが、全ての罪を一人で背負うのです。その秘密は朗読に隠されているのですが、ハンナは「あなたならどうしましたか?」と問い返します。それは戦争に関わった世代の人たちに突きつけた言葉でした。

戦争犯罪は厳しく裁かれねばなりません、普通の人知らず知らず巻き込まれてしまう怖さをケイト・ウィンスレットが陰影深く演じています。

弁護士となったマイケル(レイフ・ファイン)は獄中のハンナに古今の名作を朗読したテープを送り続けます。ハンナがその声を頼りに字を覚えていく姿が感動的。字を書き、伝える喜びがあふれます。字を知っていたら別の人生もあり得たかもしれないハンナの無念の思いが胸にしみました。マイケルも誰にも語ることが出来なかったハンナとの恋。そのために心からうち解けることが出来なかった別れた妻や娘との関係に苦しみます。

朗読という形で愛を伝え続けたマイケルと、生涯をかけて罪と向き合い償ったハンナの深い愛と哀しみが心に残りました。

「剣岳 点の記」 木村大作監督

明治40年、陸軍は陸地測量部に立山連峰の剣岳初登頂と測量を命じました。当時、日本地図で前人未踏の剣岳だけが空白でした。実在した柴崎芳太郎測量手(浅野忠信)と山岳案内人の宇治長次郎(香川照之)らが未知の剣岳に到達するまでの苦闘が描かれます。

どのルートを選んで登ったらいいのか分からないままに、100年前に柴崎らが辿った足跡を試行錯誤を追体験するように映画は作られています。

冬の立山連峰が素晴らしいです。険しい岩壁や暴風雨などに阻まれながら、一步一步進む測量隊と対峙する山の息遣いが聞こえてくるようでした。雪崩のシーン。遭難死するのではと思わず「アッ」と小さく叫び、画面を直視出来なかったです。猟師の見事なグリセードが楽しい。雪と一体であるかのようなライチョウの姿になごみます。

点の記とは、地図に打った点を記録した帳簿のこと。小さな点を打つという仕事への誇りが難所を切り開いて行く原動力となり登頂を果たします。先陣争いをした日本山岳会のメンバーとの友情がさわやかでした。

当時の貧しい装備の中で、測量という地味な仕事に懸命に取り組む人たちの姿に感動を覚えました。重い機材を背負ってですから、どんなにか困難であったことかと先人の仕事に改めて敬意を表したい気持ちになりました。



7月中に予定していた157号の発行が遅れました。父母のこと、自然児学校のネーム作りなどで落ち着いて編集出来ませんでした。お許しください。思いがけなくPMFコンサートをキタラで聴けました。ピアノのアントレ・ワッツの演奏が素晴らしく自然を描写するような音色には感嘆しました。素敵な誕生日プレゼントになりました。(みな子)

銀河通信はパソコンでも読めます。無料です。<http://briefcase.yahoo.co.jp/bc/ginganews150>



「この自由な世界で」 ケン・ローチ監督

舞台はロンドン。息子を両親に預けて働くアンジーはシングルマザー。職業紹介所を突然解雇され、ルームメイトと外国人労働者のための職業安定所を開きます。

ある時、アンジーは偽造パスポートで低賃金で不法移民を雇って儲けようとし、危ない橋を渡るのですからリスクも大きい。労働者を斡旋した

先から受け取った小切手が不渡りになります。移民労働者から賃金不払いを責められ、その仲間から殴られます。アンジーは儲けることならなんでもする。貧しい移民がトレーラーハウスにたくさん住んでいることを知ると敵に通報したり。利益追求の競争社会が彼女の心をゆがめていく様が描かれます。ルームメイトが「この国では何をしても自由なの？」と言い残して去っていきます。

不安定な移民労働者の姿は、日本の派遣労働者の実態とよく似ています。競争によってより大きな利益を追う社会、強い者が勝つ「自由市場」と呼ばれる世界がどれほど非人間的なことなのかを問うているのです。

「アンジー本当にそれでいいの？」と問いかけるアンジーの父や彼女を想う移民青年のカロルたち。アンジーのしたことは、法的にも道徳的にも許されることではありません。でもこの映画で、アンジーを責めてはいません。ケン・ローチ監督は、必死で生きている名もない人々に寄りそい、現実を見つめ、真に責められるべきは誰なのかと訴えています。

住む家もない移民の深刻な貧困にも目を向けることが出来ました。地味な映画ですが、貧しい人たちに向けるまなざしの温かさがいいです。



撮影・張玉龍さん 7.22 台北の皆既日食

メールで送って下さりました



泡瀬干潟を守ろう

元環境省の自然保護官の水野隆夫さんが5月末に来道。沖縄・泡瀬干潟とサンゴの海を埋め立てから守ろうと訴えました。干潟はさまざまな命のふるさとです。渡り鳥の中継地でもあります。

干潟は大切な自然です。みんなで守りたいですね。水野さんは銀河通信の長い読者でもあります。

購読料をありがとうございます 09.5.20~7.24 (敬称略)

蓬田三枝子(札幌市)2000円(カンパも含む) 佐藤守・英子(西東京市)3000円(カンパも含む) 久野真紀子(様似町)3000円(カンパも含む) 三浦恵美子(旭川市)2000円(カンパも含む) 海川敏雄(函館市)3000円(カンパも含む) 渡辺妙子(札幌市)3000円(18号分) 前原満之(宮崎市) 新妻徹(札幌市)5000円(カンパも含む) 阿保亘(帯広市)2000円(12号分) 土本武司(札幌市)2000円(12号分) 六百田麗子(福岡市) 恩田小夜子(東京都台東区)5000円(カンパも含む) 古田寛昭(所沢市)2000円(12号分) 森武昭(狛江市) 助田梨枝子(芽室町)3000円(カンパも含む) 森内実江(江別市)2000円(カンパも含む) 阿部一子(福島市)1500円分切手 藤井純一(札幌市)1600円分切手 合計40000円と切手は印刷と送料に使わせて頂きます。植物写真家の梅沢俊さんからは新版「北海道の高山植物」を寄贈いただきました。ありがとうございます。

サワグルミは20mもあり壮観です。つい先週登った太平山の天然秋田杉を思い出しました。周りにはサイハイランがたくさん咲いていました。足並みがそろわないこともあり、8:40ようやく金山番所に到着。江戸時代に隠れキリシタンが106人も処刑されたという白い十字架が他の山とは違う靈気が漂っているようでした。私たちの後から出発した青い山脈のメンバーとここで合流。彼らは、高山植物のパトロールをしながら登っているのです。暑いのに頭が下がります。懐かしい、JAC会員のUさん、Kさんにも再会しました。

灯明の沢を越えると正面に中千軒岳の急斜面にたじろぐ。千軒銀座でしばし休みゆっくりと急斜面をジグを切って進むが、とにかく暑い。ガンバレ岩を過ぎた時はホッとしました。千軒平の白い十字架が迎えてくれました。エゾカンゾウが目立っていましたが、ミヤマキンバイやミヤマアズマギク、イブキトラノオは少ない。ホテイアツモリソウを一輪だけ見ました。つい先日、この日の下見で登ったTさんが、「お花が一杯でした！」と。わあ残念！励まし合いなんとか頂上に全員立つことが出来ました。(4ページからの続き)

